

ひだ紀子

100% 市民派



一人ひとりが大切にされる町へ！

ひだ紀子というふつうの市民が市議会に入って、「みどりのオンブズマン」として8年たちました。（オンブズマンはスウェーデン語で「代理人」という意味です）

バターや冬野菜の値段にびっくりすることと私たちの市の借金への危機感が、私の中に同居しています。福島の状態を正確に知ろうとすることと市内の環境に目を配り続けることが、私の中で横並びであります。

この4年間に青梅市は2つの方向転換をしました。私が長く取り組んできた電算処理と下水道の提案が実ったのです。財政効果はとても大きい。ほっとしています。

役所だけで何かができる時代ではありません。私たちの町の問題を解決していくには、古いやり方にとらわれず、市民のアイデアと力を取り入れることが必要だと思います！

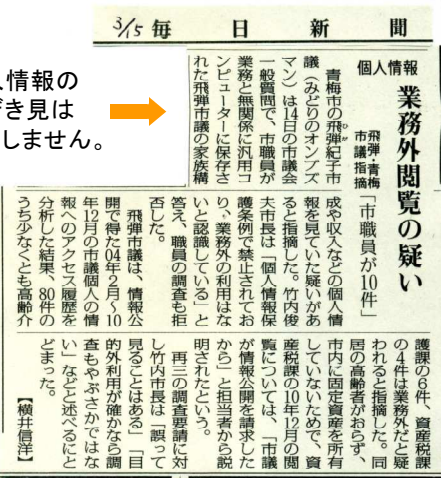
市民と市役所が対等な姿勢で、しっかり協力していける町をめざします！



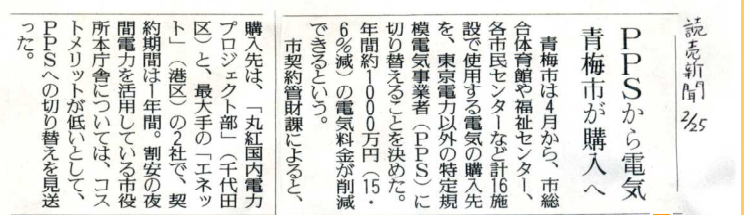
ひだ紀子の取り組みが、新聞で報道されました！



使い方のおかしい政務調査費 監査請求を3回しました。



個人情報のぞき見はゆるしません。



原発にたよらない電気を青梅市が買うことになりました。



議員特権？議会外ポストへの疑問

議員報酬を頂いているので議会の外のポストについては二重取りになると考え、委員報酬を8年間ずっと辞退しています。

「11市競輪」は組合議会に年4～5回出席するだけで年55万円もらえる。一回の会議は平均30分程度。副議長経験者がもらえるポストという噂も。法外な報酬はおかしいです。競輪からの収入として市財政に還元すべきだと思います。市議会・全員協議会で指摘したら、議長「意見としてうかがいます」他の議員は沈黙。

議会内会派名〈みどりのオンブズマン〉ひだ紀子議会報告 vol..20 2015 春

連絡先：〒198-0171 青梅市二俣尾2-435
tel/fax 050-1332-9289 メールmidorionbu@msn.com

☆詳しい事はひだ紀子ホームページをご覧ください



＊知る権利は私たちの宝

私は、情報公開すなわち「市民の知る権利」を一番大切なことだと思っています。国民・市民に知らせたくないことを行政が隠せるようになったら、それはもう本当に危険な社会。平和が壊れるときは、権力者の暴走が必ず始まっています。市民が、それをコントロールできないのは怖いことです。言いたいことが言えない戦前のような時代に戻りたくありませんね！

＊ウメ・ウィルス

ウメのウィルスは青梅のたいへんな問題です。伐採が進み春を告げるウメの花がないのはさびしい。それでもウィルスは終息しそうにありません。市は梅郷地区などのウメを全木伐って、終息宣言をしたいと考えましたが、国は調査回数を増やし、アブラムシの駆除を徹底することで、平成28年度中の植樹をめざしていきます。ほぼ重なる地域でケヤキの木の夏枯れが深刻になっています。これは虫の食害ですが、木が弱っているのか、ますます広がっています。自然の異変に市は、きちんと取り組んで欲しい。

電算処理

コスト意識ゼロ だった市役所
ケータイ・スマホ・パソコン・・・お金がかかりますね。

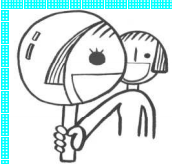
青梅市役所もコンピュータなしでは仕事になりません。特に市民の個人情報と税金や保険を結び付ける仕事は「汎用機」という巨大なシステムを使い、年間3億～4億円の運用費。しかし青梅市役所はこの電算処理のコストを見直さないでやってきました。委託先は青梅商工会議所。30年前からの随意契約です。

商工会議所って？

地域の中小企業の支援をするのが商工会議所の本来の仕事。そのため都や市からさまざまな補助金を受けています。市民会館隣の商工会議所の土地も市が、ただで貸しています(収益部分のみ有料)。市と関係が深く、「しがらみ」を感じることもあります。たとえば商工会議所への6,500万円の市の補助金を「このまま継続」と評価した市の行財政改革推進委員会に、なんと2人の商工会議所副会頭が入っていました。電算処理委託について市長は商工会議所幹部と会談をしたのに、その議事録もない。メモすらない。これでは、透明性がありません。

随意契約は一種の丸投げになりがち。職員は楽かもしれないが、委託費が高いのか安いのかすら判断できなくなっていたようです。(随意契約だと他の会社との競争がないためコストは高くなる)
私は費用負担が減るシステムへの移行を求め、専門的意見を聞くよう提案。この問題を取り上げた6年間に議会内からは私に対する圧力もありました。ようやくコンサルタントが年間2億円の費用削減ができるという試算を出し、今年5月からオープン・システムに移行することに！！

ひだ紀子はこんなふうにチェックした

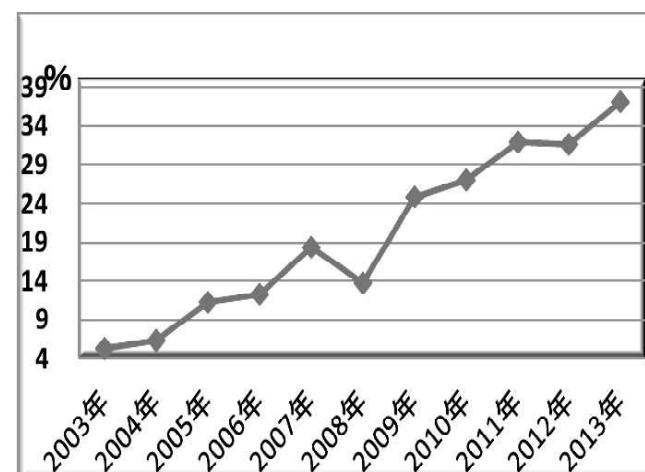


＊子どもたちのことを第一に考えて！

福島第一原発爆発の後、学校給食の食材がとても心配です。放射性物質は簡単に消えません。濃縮と拡散の繰り返し。子どもたちの給食の放射能測定を市で自らすべきだと思いますが、とうとう青梅市は乗りだしません。国が提供する測定機材を借りるのもNO。あきる野市・日の出町では今年も学校・保育園などの給食食材の自主測定を続けています。

青梅の子どもたちのぜんそく率は都平均・国平均よりずっと高い。データを調べてみたら、鼻・眼・皮膚のアレルギーも同じでした。教育委員会はこの問題を直視しようとしませんが、アレルギー対策にもっと取り組み、大気などの影響はどうか、調査をするべきだと思います。

青梅市小学生のアレルギー鼻疾患
(市教育委員会のデータより作成)



おかしいことは「おかしい」といえる町に

＊総合病院のオアシス

総合病院の一階に患者さんや家族のための小さい図書室があるのをご存じですか？
私はここに寄るのが楽しみ。心を整えてくれる本。病気について幅広く深く学ぶことができる本。人生について考えるヒントをくれる本。
病院司書さんが一生懸命選んでます！



皆様のご意見をお聞かせ下さい。

